

ウイルソン病

ウイルソン病とは

ウイルソン病は遺伝性の病気で体に過剰に金属の銅がたまってしまい、それによりいろいろな臓器障害を起こしてしまう病気です。主に肝臓、脳神経、腎臓などが冒されます。

原因は

原因は *ATP7B* という遺伝子の異常により、銅を肝臓から身体の外へ排泄できなくなることです。

症状は

肝臓の異常の(身体がだるい、目や皮膚が黄色になる、偶然の血液検査での肝機能検査の異常など)や神経の症状(話し方や歩き方がおかしい、人柄が変わるなど)で見つかることが多い病気です。

どうやって診断するの

血中の銅と銅結合蛋白であるセルロプラスミンを測定します。多くの患者さまで低い値を示します。また尿中の銅を調べると患者さまは高い値を示します。眼科の先生に目を診てもらうことも重要です。これらでこの病気が疑われたら、入院しての検査が必要です。

治療は出来るの

ウイルソン病は、数少ない治療が可能な先天性疾患です。早期に診断して適切な治療を専門施設で受けることにより、通常の方と同様の生活が送れます。もちろん結婚や出産も可能です。ただし、治療は生涯続けなければなりません。最近では、とても副作用の少ないくすりも使われるようになってきました。

放置すると進行して肝不全やひどい神経の異常を来してしまいますので、早期診断と専門医による適切な治療が重要です。

わからないことがありましたら、お気軽に原田までお尋ね下さい。

また、患者さまが、正しい知識をもてるように、患者さまの集まりであるウイルソン病友の会があります。全国集会も毎年5月に開かれています。

連絡先はウイルソン病友の会の会長さんの小峰恵子さまです。

Tel. 0557-53-7360 電話は午後6時から9時までをお願いします。